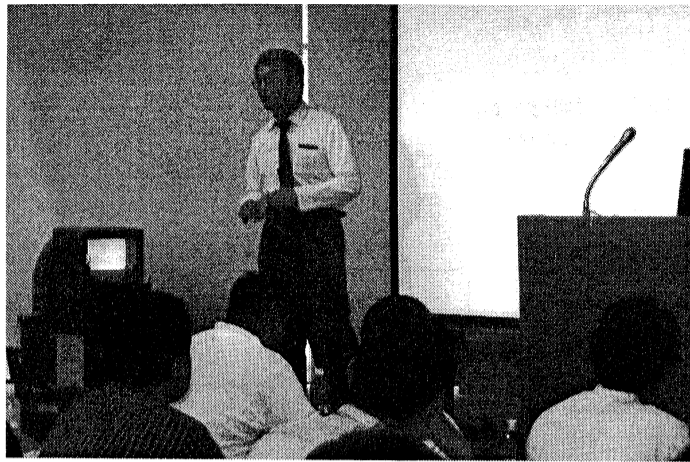


# 予定利率引き下げ問題詳説

## アカラックスが 代理店など150人参加 第1回セミナー



講演するアカラックスの坂本社長

アカラックス(株)は7月11日、東京・神田のANJOインターナショナル東京本部で、「生保予定利率引き下げ問題と2003年3月期決算」と題する第1回セミナーを開催した。講師は坂本嘉輝社長。

アカラックスの視点から予定利率引き下げ法案の仕組みやその背景にある生保の問題点を分かりやすく説明した。当日は、保険代理店など約150人が参加し、熱心に話に聞き入った。

坂本氏は、国内生保や外資系生保で、主にアクチュアリーとして23年間活躍

し、01年にアカラックス(株)を設立。生保の保険数理を中心とする幅広い経験をもとに、コンサルティングを行っている。また、02年には生・損保募集代理店アカラックス(有)を設立し、募集現場の情報も独自に収集している。

セミナーでは、予定利率引き下げ(正式には保険金額の削減その他の契約条項の変更、略して契約条件の変更)法案を、詳しく解説。実際に保険会社が契約条件を変更する場合の手続きの流れを、契約条件変更の申し出、株主総会・社員総会・総代会の特別決議、承認申請、契約条件を変更する旨の公告・通知、契約条件変更の実施、契約条件を変更した旨の公告・通知と、順序立てて、画面を使って分かりやすく説明した。

また、その際、同時に行われる可能性のある変更として、株式会社の場合は、株式併合(合併)、営業譲渡・譲り受け、減資、定款変更、相互会社の場合は、営業譲渡・譲り受け、基金償却積立金取り崩し、基金の募集、定款変更、組織変更計画書の承認(株式会社化)などを挙げた。さらに、契約条件の変更の手續き中に、従来の破たん処理(保険業法に基づく行政命令による破たん処理、更生特例法による破たん処理)に移行することもあり得ると指摘した。

### 03年決算を検証 問題の本質に迫る

また、03年3月期決算の発、表資料に基づき、自己資本(除く基金、繰り延べ税金資産)、基礎利益(十逆ざや額)、運用利回り(一般勘定)、基礎利益/総資産などの数字を検証。予定利率引き下げ問題の本質にある生保の危機に踏み

込んだ。さらに、過去の7社の破たん事例を振り返りながら、予定利率引き下げ法案が審議されるに至った経緯について持論を展開。実際に予定利率が引き下げられるような事態になった場合、顧客にどのようにアドバイスすべきかなど、

それぞれの顧客の立場に配慮した上での考え方を説明した。なお、同社の今後のセミナー開催予定は、8月8日・第2回「FPと代理店のための2003年3月期生保会社決算」、8月26日・第3回「生保プロのための

2003年3月期生保会社決算」、9月12日・第4回「変額年金保険販売のための商品特性分析」、10月10日・第5回「FPと代理店のための、あらためて生命保険入門」(会費は未定)。開催場所は各回ともANJOインターナショナル東京本部、開催時間も午後2時から4時半となっている。